

牧師室から (2021.12.19)

皆様の上にクリスマスの恵みが豊かにありますように。

私どもが海老名に来て、コロナ禍における 2 度目のクリスマスを迎えることとなった。確かに、巷でも、教会でも例年のような賑やかさは抑えられているのが伝わってくる。それ故に何か物足りない気がすることもあるだろう。しかし賑やかに祝うのが、本来のクリスマスの在り方であるのかということを考えさせられている。

誰もが知っているクリスマスの讃美歌『きよしこの夜』の原詩は、「静かな夜、聖なる夜・・・」であり、「静かな」という言葉がまず冒頭にきている。ただこの「静かな」という語は全くの無音、無声というよりも、何も聞こえないようだが、よく耳をすませばささやかな音なり、声が聴こえる状態ではないかと思っている。

では耳をすまさなければ聴こえないようなささやかな声とは何か。それは私どもの心に、上から届く神の恵みの声、福音の知らせである。この世の喧騒に紛れては、その静かな声は聞き分けにくいものである。他の音のないところで、ただ囁く神のみ声だけが近づきつつはっきり聞こえるようになる。

このようなコロナ禍にあってもこそ、静かに上からの良き知らせを聴くことができるチャンスが与えられているのではないか。共に聴こえてくる喜びの知らせに耳をすませ、本当の良いクリスマスの恵みを味わいましょう。

(鈴木淳一牧師)